

## スバ・ランカ農園だより(2011/12/22) カシューナッツ・オーナーの皆さんへ

特定非営利活動法人スバ・ランカ協会、スバ・ランカ農園年次報告(2011年)

7月 今年としては、初めてプッタラマを訪れ農園を視察しました。まず、井戸が完成しており、これで水の問題は基本的には何とかかなりそうです。協会会員の寄付で作られた井戸です。農園は、昨年とは比べ物にならないくらいよく整備されていました。昨年の6月に農園管理者を代え、チャンダヤに任せましたが、正解でした。スリランカの天候不順は今年もあり、開花の時期に雨が降り、花が落ちましたが、その期間が短かったために昨年ほどの被害はありませんでした。しかし、どこ



の農園も収穫が少ないのは事実です。昨年は120キロほどでしたが、今年は280キロの収穫がありました。これらを近在のカシューナッツ加工工場に持ち込み、殻と薄皮を取ってもらうように依頼するのですが、まずは、150キロを預けました。工場主は、ピヤダーサさんといい、息子さんが日本に居住している親日家であり、いろいろと協力してくれます。たとえば、150キロを工場に運ぶのを無償でやってくれました。また加工賃も最低限にしてくれています。

9月 7月以降も少しづつ採取できたので、それらをあわせて150キロをピヤダーサ加工工場に搬入しました。最終的に、2011年の収穫は合計300キロとなりました。昨年の約2.5倍の収穫にはなりましたが、まだまだ目標の500キロには届きません。オーナーの方には、500gをお届けするとお約束しているので、それを実現するためには、約500キロは必要です。

殻つきカシューナッツの重さの5分の1が食べられるカシューナッツになると言われています。殻



を取る作業はたいして難しくないのですが、その中の実についている薄皮をとる作業が大変です。薄皮を剥ぎ取るときに、どうしても実が砕けてしまいます。半分に割れたものはまだいいのですが、粉々になってしまう実もあります。つまり、3種類になります。ひとつは、完全な実であり、ゲディ(実)と呼ばれ、次に半分のものはピヤリ(実半分)と呼ばれ、最後のくずはキャーリ(碎片)と呼ばれています。これらをあわせて殻つきの重さの5分の1となる計算です。皆さんにお

配りするのは前2者であり、キャーリはケーキ用です。このキャーリを協会の会員であり、カシューナッツ入りのパウンドケーキを作っている授産所「ぼぶらの家」(郡上市高鷲町)が、随時、買って下さっています。ぼぶらの家：<http://www.gujo-tv.ne.jp/~popura/popranoie/home.html>

10月 スバ・ランカ農園の今後について、協会スリランカ事務所の代表インドランダさん(ニッタンプワ・ヴィディヤナンダ僧院学校)と話し合い、協会役員9名からEメールで意見を聞きました。その事情は以下のとおりです。

当初の、オーナーを募集したときの計画は、当農園とひとつ隔てた農地を買い取り、そこで、農園の管理者が現金作物を栽培して生計をたて、その上で無償で農園の管理をするというものでした。この農地の買取には協会の資金は使ってはいません。幸運に恵まれ、会長個人の資金で買うことができました。前回の農園だよりも書きましたように、初代の農園管理者にクマーラを任命しまし

たが、彼は買い取った農地で生計を立てることに失敗し、今は海外に出稼ぎに行っています。昨年2010年6月からは、2代目管理者チャンダヤに、毎月の給料を支払う形で、スバ・ランカ農園の維持管理を任せているのはご存知のとおりです。500キロ収穫を条件に、年間で30万ルピーの給料を出すことになりました。

問題はこのチャンダヤの給料をどのように確保するかです。この2年の経験でスバ・ランカ農園のカシューナッツから年間30万ルピーの利益を売ることが極めて難しいことはよく理解できました。もともとの計画では、スバ農園の管理は無償でやってもらい、それを前提に、オーナーの皆さんにカシューナッツを500g 配布した上で、剰余として、年間5万～10万ルピーの利益を出し、それをボランティア資金にしたいと考えていました。無償ではなくなったのですから、当然何らかの対策を考えなければならない状況にあったのです。そこで、協会役員の了解を得て、次のように対応することにしました。

買い取った農地(3エーカー)で、やし栽培を行う。現在、175本を植えています。来年はさらに、50本ほど植える予定です。やしの実が実るまでには5年は待たなくてはなりません。5年間、順調にやしが生えれば、6年目から、すなわち2017年からは、このやし畑から、毎年、チャンダヤの給料分を稼ぎ出すことはできると考えています。この5年の間にも、野菜栽培を手がけて、自給でき、さらには売れるまでになるよう努力するように、チャンダヤに伝えてあります。もちろん、やし畑にするには費用がかかりますが、役員の間で、農園の存続は協会の事業として必要であるとの共通認識を得ることができましたので、協会資金の中からその費用を出すことになり、農地の整備と苗穴掘りの労賃(5人雇用)、肥料と苗の購入に当てることにしました。

**11月** 私の帰国(11月28日)前に、買い取り農地をやし畑にするための土地整備と苗穴掘りは終了しました。さらに、新規にオーナーになってくださった方々のネームプレートをつけました。

**7月～11月** 今年は、「お運びボランティア」をお願いして、スリランカに来島された5人の方(家森さん、近藤さん、久家さん、相馬さん、木村さん)にカシューナッツを運んでいただきました。紙面を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。この5人の方々とわれわれ夫婦で、54キロのカシューナッツすべて無償で日本に運びこむことができました。来年2012年に、スリランカに来島される方でお運びボランティアをお願いできる方がみえましたら、ぜひご連絡ください。カシューナッツは空輸しないと味が落ちると考えており、空輸には大きなお金がかかります。

### カシューナッツの配布



NPO 法人スバ・ランカ協会

今年の収穫は殻つきカシューナッツが300キロ、食用カシューナッツが54キロ(内、くずが10キロ)でした。オーナーは現在180名ですので、お一人に、約240gしかお届けできません。昨年お願いいたしましたように、今年からは収穫量にあわせて配布させていただくということですので、500gになりませんが、ご了解ください。味についてのご感想、その他のご意見をどうぞお聞かせください。よろしくお願いたします。(文責:大岩碩)

Eメール [subalanka@tea.odn.ne.jp](mailto:subalanka@tea.odn.ne.jp) TEL:0568-92-0955(大岩)